



# 『JRの安全を考える』



## その1 ~羽越線事故とその後

NO. 583  
 発行  
 06・11月6日  
 国鉄労働組合  
 新潟地方本部  
 発行責任者  
 守橋久仁雄  
 編集責任者  
 教宣部

昨年12月25日、庄内地方特有の地吹雪が吹き荒れるなかで、その事故は起きました。19時14分頃、北余目～砂越間の第二最上川橋梁付近を通過中の秋田発・新潟行の特急いなほ14号が突風を受けて（現在のところ、そのように言われています）脱線・転覆、5名が死亡、32名が負傷するという、JR東日本発足以来の大惨事となりました。

あの日からやがて一年、JRの安全は、いまどうなっているのでしょうか。この事故以来、JR東日本では、首都圏での相次ぐトラブルの発生で国交省から二度の警告を受け、緊急支社長会議を招集して安全に対する取り組みの徹底を改めて指示したと報じられました。しかし、その矢先にとんでもない事件が発覚しました。

10月8日付、読売新聞朝刊一面トップに載った記事により、JR東日本発注の工事で、元請会社に出向していた派遣会社の社員5人が、経歴偽造して『工事責任者』の資格を取得し、安全管理などの責任者として工事に従事していたことが分かったのです。

さらに、18日には羽越線・中条駅で国土交通省令に基づく医学適性検査に合格する必要がある作業に、未受験の駅員に従事させていたことが発覚しました。

一体、JRの安全はどこに行っていたのでしょうか。あらためて検証してみましょう。

次回から羽越線事故を振り返ってみることにします。



# 『公共交通の安全を問う』

羽越線事故からやがて一年

新潟県  
新潟県公



日時 2006年11月23日13時~

場所 新潟市『トークイン新潟』

内容 講演と各分野からの報告

講師 安部誠治氏

演題 『輸送の安全と規制緩和』



国鉄労働組合 新潟地方本部  
TEL 025・244・1284



# 集会の意義・位置づけ

羽越線事故からやがて一周年をむかえます。私達国鉄労働組合にとっても、衝撃的な出来事でした。こうした事故を二度と起こさないための取組みを改めて強めていかなければなりません。

今日、行き過ぎた『規制緩和』の影響で公共交通の安全はどうなっているのでしょうか？その検証とともに、労働組合はそれと、どう闘って安全を守っていくべきでしょうか？

交通運輸に携わる労働者共通の問題として認識し学習・交流を進める集会として位置づけましょう。

# 羽越線・脱線現場

日程について

- 13時～開会
- 13時10分～主催者あいさつ
- 13時20分～講演 講師・安部誠治氏
- 14時20分～質疑・討論
- 14時40分～職場からの報告  
(各労働組合・その他)
- 15時10分～講師・意見
- 15時20分～「安全にむけたアピール」  
採択
- 15時30分～閉会



# 宣伝行動を展開

11月23日、集会開催前に新潟駅頭で宣伝行動を展開します。

新潟駅頭  
11時から



# 国鉄労働組合・新潟地方本部

連絡先・025・244・1284